

鹿屋体育大学開催<ファイナルラウンド>

H25.2.16(Sat)

院棟3階大講義室

全国各地から153名の参加を頂き、鹿屋ファイナルラウンドが無事開催できました。9件の事例報告、20件のポスター発表に加えて、第2部では、高橋健夫先生、岡出美則先生、森良一教育課程調査官の3氏を鹿屋に迎え、東京サテライトキャンパスの友添先生、柴田先生との二元中継で「これからの体育科・保健体育科」を展望しました。石川県、新潟県、岩手県、山口県、広島県等九州外からも多くの参加を頂き、全国発信となる会でした。

第1部「全国へ発信！全国から学ぶ～学校体育の充実に向けて～」

10:40～12:00 「授業づくり最前線」

- 指導と評価の一体化～評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料作成にあたって～
萩尾 英司（宮崎県教育庁スポーツ振興課）
- 体づくり運動-授業の考え方と進め方-〈改訂版〉の作成にかかわって 藤田 弘美（福岡県みやこ町立豊津中学校）
- 特別支援学校の体育の充実 岡山 啓（鹿児島盲学校高等部）
- 体づくり運動における「知識、思考・判断」の指導と評価の一体化について
～体力を高める運動の運動計画の作成を通して～ 高木 健（佐賀県立香楠中学校）
- 自らの健康に関心をもち、生涯を通じて健康に生活するための実践力の育成
-学習内容を明確にした保健学習をとらして-第62回全国学校保健研究大会（熊本大会の発表より）
北本 憲仁（熊本県山鹿市立菊鹿中学校）
- 単元構造図から作る初めてのダンス授業に関する実践事例研究：質的・量的評価法を用いた指導成果の検証
木原 慎介（東京都墨田区立鐘淵中学校）

「授業づくり最前線」では、学習評価事例集作成、体づくり運動、全国学校体育研究大会、全国保健研究大会などの全国大会レベルの報告から、特別支援校、ダンスの事例研究など授業レベルの報告など多様でした。

また、「九州におけるスポーツ施策の動向」では、福岡体育研究所の「体育的学力」、長崎県における行政と学校現場をつなぐ取り組み、大分県における体育専科の取り組みの発表を頂き、各県の特徴ある行政の取り組みについても情報を共有させて頂きました。



13:00～13:45 ポスターセッション

- iPadを活用した大学ダンス授業の実践 梶 ちか子（鹿屋体育大学）
- 運動が苦手な子どもを対象とした「チャレンジ運動教室」での取組ボールを捕る動きを引き出す教材
宮内 孝（南九州大学人間発達学部）
- 部活動における自己調整学習促進の可能性-メタ認知を向上させる「スポーツノート」の検討-
外 智紀（鹿屋体育大学大学院 体育学研究科 修士課程2年 鹿屋市立高隈中学校）
- 楽しもう体育科の授業づくり ～鹿児島市体育研究会の取り組み～ 子どもが運動の楽しさを味わう体育科の授業づくり
阿部 大亮（鹿児島市立山下小学校）
- 幼児期の運動遊びに対する保育者の指導理念と運動遊びの指導の在り方について
立花 侑子（鹿屋体育大学 体育学部 スポーツ総合課程4年）
- 全国体力・運動能力、運動習慣等の結果と子どもの体力・運動能力向上における取組の全国比較
～中学生後期に着目して～ 伊藤 恵（鹿屋体育大学 体育学部 スポーツ総合課程4年）
- 中学校教員における勤務実態と状況改善に関する研究
岩下 和哉（鹿屋体育大学 体育学部 スポーツ総合課程4年）
- 「学校体育・体育授業の支援」
川尻 彰（NPO 法人健康づくりフォーラム）

ポスター発表では、大学の学術的研究や学生の論文を含め、鹿児島市小学校体育研究会の事例や健康づくりフォーラムさんの体育支援の報告など、学校を取り巻く様々な研究や実践についても発表して頂きました。

白熱した質疑応答が展開されていました。



13:45~14:15 「九州におけるスポーツ行政施策の動向等」

- 体育的学力を育む授業づくり 松延 聡 (福岡県体育研究所)
- 体育専科教員活用推進校実施報告書 河野 理 (日出町立日出小学校)
- 学校と行政をつなぐ～愛される体育保健課を目指して～ 松尾 邦彦 (長崎県教育庁 体育保健課)

「保健体育授業づくりシンポジウム」では、パネリストの3先生の報告を受けて、東京サテライトの友添先生、柴田先生、杉山先生等とのやりとりをライブ中継しつつ、会場からも様々なご意見が出され、数十年後の体育科・保健体育科にむけて、それぞれの立場から、なすべきこと、取り組むべき事を共有する時間となりました。シンポジウムの議事録は、次年度早々にホームページにアップする予定です。

14:30~16:30

第2部「保健体育授業づくりシンポジウム」 諸外国の動向を踏まえて これからの体育科・保健体育科を展望する

パネリスト

- 高橋 健夫氏 (日本体育大学)
- 岡出 美則氏 (筑波大学)
- 森 良一氏 (国立教育政策研究所)

東京サテライト指定討論者 (二元中継)

- 友添 秀則氏 (早稲田大学)
- 柴田 一浩氏 (流通経済大学)

コーディネーター

- 佐藤 豊 (鹿屋体育大学)

【参加後に頂いたメッセージの抜粋です】

- ファイナルでは、「保健体育の存在価値、存在意義」について考えさせられました。運動し体力が高まることは言うまでもありませんが、それ以上に、子供たちのメンタルな部分を支えている部分が大きいと思います。
受験期の3年生に、体育の授業や学活の時間でドッジボールをすると、運動が苦手な子供も楽しくやっているのを見て、にっこりしてます。そこに体育の良さがあると思います。運動をすること、見るのが楽しい、そのことを、突き詰めていくと、運動がよりできるようになるともっと楽しい、長く続けれるともっと楽しい、自分に合ったスポーツが見つかるとうれしい。→豊かなスポーツライフの実現なのでしょう。私たちは、各県や地域の先生方へのメッセンジャー。そのためにもメッセンジャーバックには、たくさんのメッセージを入れておく必要がありますね。教育行政に5年携わり、そこん所を感じられるようになりました。ありがとうございます。
- サテライトに行った さんから、資料を見せてもらいました。やっぱり、いろいろキャンセルして無理してでも行くべきだったと、後悔しています。(新潟より)
- ますます研究意欲が湧きました。実践から明らかになる研究課題とか、研究から明らかになる実践のヒントとかそんなのを繰り返しながら、成果は子どもに還元されていくとも面白いですね。そして、やはり体育の価値は大きいし、それを表に出していくことが大切かなと確認できました。体育科教育面白いですね。
- 地域のNPOとして、どのような形で学校教育に協力できるのか、どうすれば先生方の力になれるのか、教育現場は外部の団体に何をしたいのか？また、して欲しくないのかそんなことを考えながら、参加いたしました。やはり、最終的には先生方との信頼関係を築くことに尽きるのかなという思いです。
- ファイナルラウンド、お疲れ様でした。大変素晴らしいラウンドでした。また多面的に学校体育を考える機会を与えていただきました。日本の学校体育を守っていけるよう頑張っていきたいです。
- 先日の鹿屋ラウンドは、本当にお疲れ様でした。豪華シンポジストの先生方のお話をはじめ、最先端の授業・活動事例の報告など、大変有意義で夢のような時間が過ごせました。これからの体育・保健体育の存続のためにも、あらためて、体育理論や体づくり運動の授業の重要性をひしひしと感じました。今は、とにかく、自分にできることを精一杯、頑張っていきたいと思います。